

平成27年度 校区外部評価

# 学校評価表（最終まとめ）

【成果・取組指標に対する評価と評定コメント】

学校名 伊 藤 学 園

# 評価項目1 基礎学力の定着

<p><b>本校の基本的な考え方</b> (特に身に付けさせたい力、重点的な実践内容など)</p>	<p>○小中一貫教育要領で示されている基礎的・基本的な知識、技能の習得に力を入れるとともに、「理解」「学びあい」「教室の雰囲気」を大切に授業を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生以上の教科担任制、加配教員や都・区配当の講師、指導助手を活用した少人数授業、習熟度別学習、チームティーチングを実践する。</li> <li>・市民科と各教科を関連させ、「学習の決まり」を基に学習規律の徹底を図る。</li> <li>・校内研修を活用し授業力を高めるシステムを構築するとともに指導教諭を活用しながら、ベテラン、若手それぞれの授業力を高めていく。</li> <li>・学力の分散化を踏まえて、家庭への啓発を強めるとともに、個に応じた指導と家庭学習に関するきめ細かい指導を行う。</li> <li>・英語検定、数学検定などについて、児童・生徒や保護者に周知し、積極的に取り組ませる。</li> </ul>				
	<p>評価指標 (成果指標)</p>	<p>最終自己評価</p>	<p>校区外部評価委員による評価</p>	<p>学校から</p>	
	<p>評価</p>	<p>評定について教員のコメント *コメントは全員のものではありません。</p>	<p>自己評価についてのコメント</p>	<p>校区外部評価についての教職員の意見</p>	<p>校長の態度表明</p>
<p>① 東京都学力の向上を図るための調査・全国学力学習状況調査において各教科の平均を5ポイント以上上回る。品川区学力定着度調査では、区の平均を上回る。</p>	<p>A 27% B 63% C 10% D 0% 未回答2名</p>	<p>・都の学力調査6年では、4教科すべてにおいて都の平均を6～10ポイント上回った。 ・都の学力調査8年では、社会・英語については都の平均を1～2ポイント上回ったが、国語・数学・理科については、1～3ポイント下回った。 ・都の学力調査8年では、平均は上回ったものの2.8ポイントに過ぎず、5ポイント以上という目標には届かなかった。観点別にみると「解決する力」が東京都の平均を下回っており、問題解決学習の不足が浮かび上がった。 ・結果を受けて、学習に対する姿勢を改善するため朝学習や朝自習等を展開している。参加者は増加傾向にある。 ・全国の学力調査6年では、国語B・算数Aが国の平均を6ポイント上回った。その他も5ポイントには達していないが上回っている。 ・全国の学力調査9年では、すべてにおいて国の平均を7～12ポイント上回っており数値目標を達成した。 ・各学力調査の結果に基づいて、各学年や教科ごとに対策を検討し、授業改善に取り組んだ。8学年では、各学力調査の結果を見ると、取組の成果が出ていない教科もある。来年度に向けて、さらに継続的な取組が必要である。</p>	<p>①目標に届かなかった指標があったことから、先生方の自己評価はやや厳しめにしているが、全体的に見れば、もう少し肯定的に評価してもよいように思う。また、目標に到達するかどうかよりも、到達した場合、しなかった場合いづれも、その原因・理由を把握することのほうが重要である。 ①平均点を上げるには、ある程度学力のある子供をさらに伸ばす方法が想定される。その反動で学力の低い子供が置き去りにされてしまう危険がある。落ちこぼれる子供を出さないことが公立校の使命であるので、それを踏まえたボトムアップに取り組んで欲しい。 ①知識偏重が指摘され、問題解決力の育成が社会全体の大きな課題となっている。朝学習が知識偏重にならないよう内容の工夫を望みたい。 ①最終学年である9年生の数値が全国平均を大きく上回っていることは成果であると考えられる。 ②習熟度別少人数授業については、委員の中で様々な意見があったが、習熟度別編成の意義を説明し、児童・生徒の意向を尊重して、少人数クラスに分けることには、私は特に問題を感じない。むしろ、担当教員が当てられるのであれば積極的に取り組むことが望ましいと思う。 ②習熟度別授業の実施は効果がある。この方法を他教科にも広げるべきである。落ちこぼれてしまいがちな子供も授業を受けるのも辛いが、分かったことを聞かされる授業も退屈でやる気を失うと思う。 ②保護者評価で80%が達成されている。自己評価Aの割合を上げていきたい。 ②習熟度別の授業は効果がありよい。 ③中学2、3年生になると、自己評価が過大にきびしくなり、それがこの項目の評定結果を下げることも、自己肯定感の低減につながる可能性がある。コメントの中に、「試験勉強の効果的なやり方を説明する」という実践が書かれていたが、このような勉強法の説明の中に、自己管理・時間管理法の説明を含めることが考えられる(実践されていたらいいかもしれません)。 それによって、小さい目標の積み重ねで大きな目標を達成していく(たとえば最初から1時間、2時間勉強するのではなく、20分、30分の勉強を積み重ねる)ことを経験させ、自己肯定感の向上にもつながることが考えられる。 ③家庭学習への保護者の意識や行動はなかなかすぐには変わらないと思う。にもかかわらず、教職員の自己評価が高いのは心強い。 ③8年生の数値が低くなっているのは、塾へ通う率が高まっていることと関連しているとも考えられる。</p>	<p>①習熟の低い子供を置き去りにしないように、指導の工夫や補習などを行っている。しかし、そのような児童の家庭が学習面においてあまり協力的ではないという事実もある。保護者を巻き込んだ工夫がさらに必要になってくると考えている。 ①学力のある子もそうでない子もともに学び合うのが問題解決型の学習だと解釈している。 習熟度別でスキルを上げるとともに、クラスでの指導でも共に学ぶ姿勢づくりをしていくことが大事だと思う。 ①教科担当は工夫していると思う。 ①8年生は基礎基本の徹底のため、漢字コンテストを行い底上げを現在行っている。3学期は第二回を実施予定である。 ①授業規律の確立をさらに進め、落ち着いた学習する習慣を身に付ける。また、質問や疑問を解決する機会をより多くつくる。 ②英語・数学については習熟度別の授業方式についてのノウハウの蓄積があるから効果を上げていると考える。 ③家庭学習の位置づけ、取り組み方について、多くの保護者から「4年生までと5年生以降で大きくちがう、戸惑う」という相談を受けた。4年生年度末と5年生年度初めの保護者会で家庭学習に関する意図や協力体制を話すよと感した。</p>	<p>①・特に下位グループの児童・生徒の基本的な知識・理解のボトムアップに重点を置く。「既習事項を押さえながらの授業展開」「復習時間の設置」「小テストの繰り返し」「個に応じた家庭学習の提供」「個に応じた補習」等の指導をしていく。 ②考える力を育てる授業づくりについては、課題解決型学習を効果的に取り入れた授業を推進していく。研究・開発部を中心とした校内研究を基盤に、成果と課題を明らかにしながら、学ぶ喜びや分かる喜びを実感させるようにする。 ③望ましい学習習慣の定着と学力の向上のためには、家庭学習は欠かせないものである。保護者会でも保護者の協力と理解を得られるよう説明していく。</p>
<p>② 学校評価アンケートの項目3『授業は分かりやすく、児童・生徒の実態に合わせた工夫がなされていますか』で、肯定評価を80%以上にする。</p>	<p>A 19% B 77% C 4% D 0% 未回答1</p>	<p>・86%の方が肯定的な評価をしている。 ・習熟度別少人数授業を実施し、生徒に応じた指導を行ってきた。 ・生徒の意欲・関心を高めるため、課題解決的な学習を取り入れ、班活動などを通じ、自ら学ぶ意識を高めるよう心掛けている。 ・興味関心を引き出す工夫が不足しており、授業に気が向かない生徒が多くなってしまっている。 ・試験勉強の効果的なやり方を説明するなど、家庭学習に取り組みやすくなるような仕掛けをしている。</p>			
<p>③ 品川区学力定着度調査・東京都学力の向上を図るための調査・全国学力学習状況調査での家庭学習への取り組みについての項目で肯定評価を60%以上にする。</p>	<p>A 13% B 77% C 10% D 0% 未回答2名</p>	<p>・都の調査30分以上学習する児童・生徒は5年では、69.6%、8年では41.7%と低い傾向にある。 ・国の調査「自分で計画を立てて学習する」の肯定的児童・生徒の割合は、6年は68.4%、9年は59.6%という数値結果であった。 ・結果を受けて、学年便利にも学習法を紹介するなど工夫を行っている。</p>			
<p>④</p>					

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

## 評価項目2 社会性・人間性の育成

<p><b>本校の基本的な考え方</b> (特に身に付けさせたい力、重点的な実践内容など)</p>	<p>○市民科を中心として、全教育活動を通して、児童・生徒一人一人が自らの在り方や生き方を自覚して、困難に負けることなく社会の中でよりよく生きていくための確かな実践力と、社会貢献できる資質・能力を養う。</p> <p>・9年間を見通した市民科年間計画に基づき、児童・生徒の実態を踏まえた重点単元を設定し、市民科学習を推進する。(いじめ防止、コミュニケーション能力の育成、あいさつ、礼儀、キャリア教育など)</p> <p>・施設一体型小中一貫校の良さを生かした、1から9年生までの全校一致の厳しく親身な生活指導体制を確立する。</p> <p>・スクールカウンセラーや巡回相談員、関係諸機関と連携して、いじめ防止や不登校、特別な支援を必要とする児童・生徒などに組織的に対応する。</p> <p>・学校行事、生徒会活動、部活動や、合同移動教室を含めた異学年交流行事に積極的に取り組ませて、自己有用感を育てる。</p> <p>・生活面における分散化(基本的な生活習慣や規範意識の定着のばらつき)の克服のため、家庭への啓発と個別指導を強める。</p>				
<p>評価指標 (取組指標)</p>	<p>最終自己評価</p>		<p>校区外部評価委員による評価</p>	<p>学校から</p>	
	<p>評価</p>	<p>評定について教員のコメント *コメントは全員のものではありません。</p>	<p>自己評価についてのコメント</p>	<p>校区外部評価についての教職員の意見</p>	<p>校長の態度表明</p>
<p>① 市民科の授業を計画的に実施して、コミュニケーション能力の育成を図る。</p>	<p>A 31% B 63% C 6% D 0%</p>	<p>・市民科の授業を展開する上で、系統立ててカリキュラムを進めている。今年度はアサーティブやアンガーマネジメント等、学年の状況に合わせて生徒がイメージしやすいように工夫して展開した。昨年度の内容にも振り返る「単発でない市民科授業」の展開を心掛けて実施した。自己有用感を高めるために生徒主体の行事運営を意識し計画実行した。</p> <p>・生徒の実態に合わせて実施している。</p> <p>・年間計画、学期計画を立てて、授業を進めている。今年度は特に、アサーティブな表現を取り入れ、また、スピーチや討論などを行っている。</p> <p>・市民科の年間指導計画を立て、変更することはあっても、コミュニケーション能力の育成を行っている。</p> <p>・8年ではアサーションスキルの習得を目指して、計画的に授業を実施したが、学習内容が頭では理解できていても、実生活で十分活かされていない。</p> <p>・市民科担当を中心に学年で統一して行うことができている。</p> <p>・計画的に実施し、発達段階に応じた課題も示しているが、生徒が学校生活の中で市民科で学んだことを生かせるよう、さらに指導していきたい。</p> <p>・年度当初に立てた予定と、実際の進捗や内容を適宜修正しながら市民科授業を実施した。</p>	<p>①健全で豊かな社会性を身に付けるには、コミュニケーション能力、挨拶、礼儀、規律を基本とした取組だと考える。取組指標三点は妥当であるが、根本は本人の人間性である。「本校の基本的な考え方」欄にあるように、在り方・生き方の自覚、困難に負けない実践力、自己有用感をどう育てるかにかかってくるであろう。指標に偏ることなく幅広い観点からじっくりと取り組んでいただきたい。</p> <p>①低学団の市民科授業が地域に密着したものとされており地域で子供たちを守る基盤づくりにつながるよい傾向であると感じた。地域の介護施設への訪問をもっと増やしてもよいと思う。</p> <p>②市民科の学習は、大切であると認識している。このAB合わせて94%という数値は大いに評価できる。</p> <p>②校内で児童・生徒とすれちがうと多くの子供が目礼あるいはそれに近い反応をしてくれる。礼儀が不足していると不快になることがあまり無い。</p> <p>②あいさつは学校の中ではできるだろうが、校外ではこちらから声をかけても低学年しか返事をしない。高学年になると照れて下を向いてあいさつしない子供がいる。</p> <p>②学園内では全ての教職員がどの保護者にも気持ちよくあいさつしていた。</p> <p>②教職員の皆さんが、挨拶や礼儀は一般常識として一生懸命指導や声掛けをしている姿を見ている。</p> <p>②あいさつができない子供の中には、はずかしさがあることも考えられる。学校では心と心を通わせる大切さを指導し家庭での指導が必要である。</p> <p>③規律については現状では案じることは不要だと考える。</p> <p>③学校だけでは良い方向に向かわない。家庭での躰が重要であると考えます。</p> <p>③低学年の教室で授業に参加しづらい配慮が必要な児童の指導がたいへんそうである。</p>	<p>①2年生は、市民科の単元の中に、地域の人の交流や介護施設への見学といった福祉領域の単元はないので、生活科の町たんけんとして訪問した。訪問は、児童にとつて意味があるものだったが、交流先との事前の打ち合わせや単元の計画をしっかりと行う必要があると思う。</p> <p>①日々の生活が市民科と関わりがあることをもう少し認識して指導する。</p> <p>①研究の柱に、一貫校からできる指導というところで今年度市民科も動いている。その中で品川教育フォーラムの市民科をキャリア教育を柱に展開予定である。発達段階で教育の系統性を見ていただきたい。</p> <p>②あいさつは日頃から重点的に指導にあっている。良い評価をしていただけたことは、とても励みになる。</p> <p>②低学団の中でも、自ら積極的あいさつができる児童とできない児童がいる。校内だけでなく校外でも地域の方にあいさつすることができるよう、1年生からの継続的な取組と家庭での協力が必要なのだと感じた。</p> <p>②あいさつに限らず、学校だけでは指導は行き届かない。是非とも情報を共有し家庭と学校で共通理解し、共通指導をしていきたいと思う。子供の成長を思う気持ちは、学校も家庭も同じはずだと思ふ。</p> <p>②校内でしっかりあいさつできる児童・生徒を増やすためには、教職員が元気よくあいさつをすることが大事である。実践してきた。</p> <p>②子供たちが社会に出て、少しでも好印象を与えられる人になってもらいたいのので礼儀やあいさつを指導していきたい。</p> <p>③学校と家庭が躰について連携していける取り組みが何かあればよいと思う。また、低学団のうち授業規律を身に付けさせることが大切だと思う。</p> <p>③低学年で授業に参加できない児童の指導については、児童の特質やその時の状況、児童と教員との人間関係などさまざまな条件が絡んでくる。じっくりと複数の目で児童を観察し、学年・学団で共有して指導方針をつくるなどの工夫が必要だと思う。</p>	<p>①学習で身に付けた知識やスキルを、日常生活で活用できているかについて、自己評価させる機会をつくっていく。また、コミュニケーション能力にかかわる児童・生徒の言動を注視し、授業以外の指導時にも学習経験と結び付け説諭をしていく。この取組により学びが一過性で終わるのではなく、定着できるようにする。</p> <p>②あいさつの励行については、個人差が大きいことが課題である。幼少期からの家庭での躰、習慣化の差も大きな要因ではあるが、学校では、望ましい社会性を身に付けさせるために粘り強く指導していく。どの教職員も同じ意識で共通指導することが必要である。</p> <p>③学習への向き合い方の自分自身の意識を高め、他者に迷惑をかけず学び合うことができることが授業規律の必要性である。今後もそれをよく認識した上で、下学年からの十分な定着が図られるよう共通指導していく。</p>
<p>② 教師が範を示して、すべての児童・生徒が、あいさつや礼儀、場に応じた行動をできるようにする。</p>	<p>A 26% B 67% C 7% D 0%</p>	<p>・先生方が朝の週番として、校門や横断歩道にたってあいさつをしていることは、伊藤学園ならではの、どの職員も、児童・生徒に対して、丁寧な対応をしていると思う。</p> <p>・よく声掛けしている場面を見かけた。</p> <p>・職場体験の実施から、マナーやあいさつを自分からすることの大切さをより細かく指導することができた。</p> <p>・元気の挨拶の声が毎朝聞こえてくる。</p> <p>・上級学校見学等を通して得た就労に向けて挨拶や礼儀がとても大切であることを指導している。</p> <p>・朝の登校時にOSIにたつて生徒一人一人に挨拶をおこなって規範を示した。</p> <p>・日常的にあいさつ、礼儀の指導を行っている。しかし、生徒に徹底できていないこともあるので、そこは課題である。</p> <p>・あいさつを返さない児童が多い。</p> <p>・率先垂範を心掛けても、思った以上に生徒から返ってこないことがある。</p>	<p>②校内で児童・生徒とすれちがうと多くの子供が目礼あるいはそれに近い反応をしてくれる。礼儀が不足していると不快になることがあまり無い。</p> <p>②あいさつは学校の中ではできるだろうが、校外ではこちらから声をかけても低学年しか返事をしない。高学年になると照れて下を向いてあいさつしない子供がいる。</p> <p>②学園内では全ての教職員がどの保護者にも気持ちよくあいさつしていた。</p> <p>②教職員の皆さんが、挨拶や礼儀は一般常識として一生懸命指導や声掛けをしている姿を見ている。</p> <p>②あいさつができない子供の中には、はずかしさがあることも考えられる。学校では心と心を通わせる大切さを指導し家庭での指導が必要である。</p> <p>③規律については現状では案じることは不要だと考える。</p> <p>③学校だけでは良い方向に向かわない。家庭での躰が重要であると考えます。</p> <p>③低学年の教室で授業に参加しづらい配慮が必要な児童の指導がたいへんそうである。</p>	<p>②子供たちが社会に出て、少しでも好印象を与えられる人になってもらいたいのので礼儀やあいさつを指導していきたい。</p> <p>③学校と家庭が躰について連携していける取り組みが何かあればよいと思う。また、低学団のうち授業規律を身に付けさせることが大切だと思う。</p> <p>③低学年で授業に参加できない児童の指導については、児童の特質やその時の状況、児童と教員との人間関係などさまざまな条件が絡んでくる。じっくりと複数の目で児童を観察し、学年・学団で共有して指導方針をつくるなどの工夫が必要だと思う。</p>	<p>②校内でしっかりあいさつできる児童・生徒を増やすためには、教職員が元気よくあいさつをすることが大事である。実践してきた。</p> <p>②子供たちが社会に出て、少しでも好印象を与えられる人になってもらいたいのので礼儀やあいさつを指導していきたい。</p> <p>③学校と家庭が躰について連携していける取り組みが何かあればよいと思う。また、低学団のうち授業規律を身に付けさせることが大切だと思う。</p> <p>③低学年で授業に参加できない児童の指導については、児童の特質やその時の状況、児童と教員との人間関係などさまざまな条件が絡んでくる。じっくりと複数の目で児童を観察し、学年・学団で共有して指導方針をつくるなどの工夫が必要だと思う。</p>
<p>③ 教師は、発達段階に応じた授業規律を児童・生徒、保護者に示し、学校生活の中でしっかり躰けている。</p>	<p>A 33% B 63% C 4% D 0%</p>	<p>・授業規律を明確に示している。保護者にも定期的に学級通信等で協力を求めるようにしている。</p> <p>・教師が考える授業規律と保護者が考える授業規律の差を個別面談で話し合い、共通理解を得ることができた。</p> <p>・授業開始の挨拶を切り替えのタイミングととらえ、号令時に全員が黙って前を向いた状態で挨拶を行うように心がけた。</p> <p>・各自の実態を把握して、成長するために段階を踏んだ課題を設定して見守り、諦めず繰り返し指導することをしてきた。</p> <p>・授業規律を身に付けさせるために、8学年では組織的に粘り強く指導した。その結果、昨年度よりは向上したが、授業によって差がある。来年度は受験の学年なのでさらに徹底した組織的な取組が必要である。</p> <p>・低学団で事前に共通理解を図ったものが実際の学校生活の中で生かされていない。学年に応じた授業規律をしっかりと身に付けさせて進級させていきたい。</p> <p>・教員は授業規律を示し、躰けようとしているが、まだ課題がある状態である。</p> <p>・発達段階に応じた授業規律について迷いが生じてしまい、徹底できていない。</p> <p>・指導はしているが、児童によって素直に受け入れる受け入れないがある状況である。</p>	<p>②校内で児童・生徒とすれちがうと多くの子供が目礼あるいはそれに近い反応をしてくれる。礼儀が不足していると不快になることがあまり無い。</p> <p>②あいさつは学校の中ではできるだろうが、校外ではこちらから声をかけても低学年しか返事をしない。高学年になると照れて下を向いてあいさつしない子供がいる。</p> <p>②学園内では全ての教職員がどの保護者にも気持ちよくあいさつしていた。</p> <p>②教職員の皆さんが、挨拶や礼儀は一般常識として一生懸命指導や声掛けをしている姿を見ている。</p> <p>②あいさつができない子供の中には、はずかしさがあることも考えられる。学校では心と心を通わせる大切さを指導し家庭での指導が必要である。</p> <p>③規律については現状では案じることは不要だと考える。</p> <p>③学校だけでは良い方向に向かわない。家庭での躰が重要であると考えます。</p> <p>③低学年の教室で授業に参加しづらい配慮が必要な児童の指導がたいへんそうである。</p>	<p>②子供たちが社会に出て、少しでも好印象を与えられる人になってもらいたいのので礼儀やあいさつを指導していきたい。</p> <p>③学校と家庭が躰について連携していける取り組みが何かあればよいと思う。また、低学団のうち授業規律を身に付けさせることが大切だと思う。</p> <p>③低学年で授業に参加できない児童の指導については、児童の特質やその時の状況、児童と教員との人間関係などさまざまな条件が絡んでくる。じっくりと複数の目で児童を観察し、学年・学団で共有して指導方針をつくるなどの工夫が必要だと思う。</p>	<p>②校内でしっかりあいさつできる児童・生徒を増やすためには、教職員が元気よくあいさつをすることが大事である。実践してきた。</p> <p>②子供たちが社会に出て、少しでも好印象を与えられる人になってもらいたいのので礼儀やあいさつを指導していきたい。</p> <p>③学校と家庭が躰について連携していける取り組みが何かあればよいと思う。また、低学団のうち授業規律を身に付けさせることが大切だと思う。</p> <p>③低学年で授業に参加できない児童の指導については、児童の特質やその時の状況、児童と教員との人間関係などさまざまな条件が絡んでくる。じっくりと複数の目で児童を観察し、学年・学団で共有して指導方針をつくるなどの工夫が必要だと思う。</p>
<p>④</p>					

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

### 評価項目3 小中一貫教育の推進

<p><b>本校の基本的な考え方</b> (重点的な取組内容など)</p>	<p>○施設一体型小中一貫校として、先駆的な教育を推進するとともに、大井第一・山中小学校との連携を一層強める。          ・9年間の系統的な指導計画・評価計画を作成・実施して、保護者への周知を図るとともに、PDCAのマネジメントサイクルを活用して改善を図っていく。          ・異学年交流活動を開発・充実させる。(交流授業、交流給食、合同移動教室、9年生による1年生のお世話活動など)          ・学年主任会や朝の運営委員会を通して、教育活動の相互理解や児童・生徒の情報の共有化を図る。          ・学校便り、PTA広報誌、ウェブページ、学校説明会等あらゆる機会を利用して、本校の取組を説明し、理解を深めていただく。          ・連携校とは、6年の合同市民科、伊藤学園における6年の体験授業など、連携活動の創意工夫を進める。</p>				
<p>評価指標 (取組指標)</p>	<p>最終自己評価</p>	<p>校區外部評価委員による評価</p>	<p>学校から</p>		
<p>① 9年間の系統的な指導と評価を実施・工夫改善する。</p>	<p>評価</p> <p>A 19% B 74% C 7% D 0%</p>	<p>評定について教員のコメント *コメントは全員のものではありません。</p> <p>・算数から数学への連結をスムーズにするために、小学校籍の教員との打ち合わせを行い、指導をそらえるなどの工夫を行った。          ・校内研究会で児童・生徒の資質・能力を効果的に伸ばす指導法の工夫を研究し、積極的に研究授業を行っている。          ・特に異学年交流としての、移動教室は大きな成果を出していると考えられる。8年生は、今年の移動教室を通して大きく成長したと思う。また、教科指導に関して、音楽は9年間の系統的な指導を心がけ、今の9年生は5年生からの指導が5年間結び付き、幅広い音楽活動を展開することができたと思う。          ・市民科において、9年間を見通した、系統的な指導ができるように改善した。自己管理領域において、9年生までどのような学習をしていくのかを把握し、1年生では、自分の気持ちを把握できるように指導した。          ・今年度も教科部会でテーマを設定し、授業研究を行いながら指導の改善・工夫を行った。その結果、各教員の指導力の向上につながった。          ・社会科の授業を見合うことが出来た。          ・教科書採択にともない、平成28年度の指導計画を9年間を意識して作成した。          ・さまざまな学年の教員と相談しながら指導をしている。校内研究会での取組も、各分科会で実施している。          ・チームをつかって研究に励んでいる。相談できる方がいるので、指導と評価の実施については改善できていると感じている。          ・英語科では、6年生までと、7年生以上の授業でそれぞれどんな内容を行っているかを交流し、さらなる系統性のために改良の余地があると思う。          ・低学団では学校や放課後のルールを「いとかっここのちかい」として出しているが、授業のルールや掲示物などもそろえて、どの学年になっても同じルール、同じ教室環境という特別支援の観点も入れていく必要があるように感じる。</p>	<p>自己評価についてのコメント</p> <p>①一貫校の一番のよさは1～9年生の交流ができることである。このよさを今後も最大限に生かしてほしい。          ②小中一貫体制の9年間の実践が浸透しつつあり評価も得ていると思われる。          ②学校公開では市民科の学習をよく参観することができる。子供たちは真剣に話し合っている姿があり、とてもよいと感じた。また、学年の初めの頃は落ち着かない子供が多かったが、最近は静かだし先生の話の聞いていると思う。          ②市民科の授業で行っている町探検や町会参加のもちつき会等、子供たちと地域住民との交流の場として有意義である。          ②学校公開にさらに多くの人に参加してもらい、学校のよさを知ってもらわなければならない。          ②ずいぶん一貫校のよさが伝わったと思う。さらに学校公開や行事で来校してもらえば理解が広がると考える。          ②伊藤学園が先頭を走るようにして積み上げてきた小中一貫教育の実践は、今後いっそう重みをもって評価されると思われる。ここに書かれたコメントの一つ一つが重要な意味を持っていると感じる。          ②Dという回答が2%(1名)という結果が、さすがに気になる(Dという回答は全体でここだけ)。</p>	<p>校區外部評価についての教職員の意見</p> <p>①1～9年生全体の交流や、5・6年生と伊藤学園との交流など、場面を増やしていきたい。          ①一貫校として、特別支援学級でも、ひまわり組と6組の交流を引き続き行っていきたいと考える。          ①メリット・デメリットを考えたうえで徐々に整備していきたい。          ①品川教育フォーラムでは地域にお世話になって実現できた7年の職場訪問、8年の職場体験の報告がある。8年は今年度、5・6か所にも及び非常に多くの職場で実施することができた。報告が地域への還元の一つであるので見ていただきたい。          ①普段の指導や校内研究を通じて、小中の先生がともに学び合い、児童・生徒にその成果を還元していると思う。長年の積み重ねが伊藤学園の文化として定着しつつあるのだと思う。          ②校内での取り組みに、多くの地域や保護者の方々が関わってくださっていることを、心から感謝している。惜しめない誠意を強く感じ、地域に支えられているという実感を感じた。          ②町会参加のもちつき大会は準備される方は大変だと思うが、児童、生徒ももちつきに参加し、季節の行事として、地域の方と触れ合える良い機会になっている。          ②市民科の授業で行っている町探検やもちつき会等、子供たちはとても楽しみにしている。今後も、地域の方や保護者の方の協力で行われていることを忘れず、感謝の気持ちを持ち、参加させていきたい。</p>	<p>校長の態度表明</p> <p>①系統的な指導の重要性については、全教員が認識している。しかし、よく工夫改善されている教科とまだ十分でない教科との差があることが課題である。校内研究を活用し、視点を明確にして、各教科部会で評価も含めて共通理解・共通指導をしていく。          ②運動会や5、8年合同移動教室では、保護者からもその価値について理解された内容の評価をいただいている。今後も一貫校だからこそできる教育活動を学校・学年便り等で伝えたり公開して児童・生徒の姿を見ていただいたりしていく。一方で児童、生徒自身がそのよさを実感し、子供を通して伝わるよう努めていく。さらに、教科指導や生活指導についても一貫校のよさが伝わるよう工夫していく必要がある。</p>
<p>② 保護者や地域に、小中一貫教育の意義や良さを伝える。</p>	<p>A 19% B 75% C 4% D 2% 未回答1名</p>	<p>・保護者会、新入生説明会で小中一貫教育の説明を行っている。          ・5、8年の高遠移動教室では当日の交流だけでなく、移動教室が終了した事後指導も充実させることができた。具体的には、5、8年短歌発表会を行った。そして、短歌はすべて長野県の短歌のコンクールへ提出し審査していただいた。          ・学校公開を多く設け、地域の方に学校を知っていただく機会があり、伊藤学園の教育を伝える場となっている。          ・研究会でも積極的に話し合われているように思う。          ・5・8年合同移動教室などの異学年交流を通して、一貫教育の良さを児童生徒や保護者等に実感してもらえよう工夫した。児童・生徒にとって大変有意義な活動となり、保護者にも好評であった。          ・積極的に地域の行事にダンス部を参加させた。          ・日頃の授業、行事、異学年交流などを通して、発達段階の違い、またそれに合わせた学校教育の在り方を示すことができている。          ・目に見えない部分でもたくさんの成果があると思う。その部分をきちんと伝えられたら良いと思う。          ・自校の特にPTAの方々には夜遅くまで活動いただくなど、積極的に関わっていただいていると感じる。          ・小中一貫教育について伝える機会を十分にもてなかつた。</p>	<p>②Dという回答が2%(1名)という結果が、さすがに気になる(Dという回答は全体でここだけ)。</p>		
<p>③</p>					
<p>④</p>					

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

## 評価項目4 保護者・地域との連携

<p>本校の基本的な考え方 (重点的な取組内容など)</p>	<p>○学校・家庭・地域社会の三者が適切に役割分担し、共同で児童生徒の教育にかかわる連携・協力体制の確立を目指す。          ・市民科と関連付けて地域行事へ参加させるとともに、職場体験など地域との連携に基づいた教育活動を充実させる。          ・ウェブページの毎日の更新と、学校便り「鐘の鳴る学舎」の月1回の発行、学校公開(年21回)、学校説明会(年2回)を実施する。          ・保護者や地域の方に、ゲストティーチャーやボランティアとして授業や行事に積極的に参加していただく。          ・あいさつや言葉遣いの指導について、保護者会やPTA運営委員会、市民科授業地区公開講座、地域の会などでアピールし、協力を要請する。          ・PTAの各機能を再確認して、役員や部員だけでなく、一般会員が協力できるシステムを構築する。</p>				
	<p>評価指標 (取組指標)</p>	<p>最終自己評価</p>		<p>校区外部評価委員による評価</p>	<p>学校から</p>
<p>① 保護者・地域に対して、積極的に かかわり情報を発信する。</p>	<p>A 33% B 65% C 2% D 0%</p>	<p>生徒に積極的に関わりその様子をホームページや通信・学校だより等で伝えている。          ・市民科授業地区公開講座では、研究テーマに沿った講師による、講演会を行った。また、職場体験では今年度から9月に保護者会ができたのでそこで保護者全体に周知徹底することができたことが大きかった。          ・学校便り、学年便りを通して、しっかりと学校での生徒の活動内容などを発信していると思う。          ・定期的に学級通信で情報を発信している。          ・月に1～2回、学級通信を発行している。          ・学年だよりや学校だよりを通して、行事や児童生徒の学校生活の様子を保護者や地域に積極的にわかりやすく発信できた。          ・伊藤学園ファームとして、米を育てる活動を地域団体である「緑化隊」と連携して行った。充実した活動となった。          ・学校便り、学年便り、その他を通して発信できている。          ・保護者に対して毎日の様子、成長の様子が見られた時には、随時連絡帳を通じて知らせ、捕捉したい時には、電話連絡をするなど情報を事細かに発信してきた。          ・外掲示板、外部の講師、読み聞かせなどへの参加、積極的に開かれた環境をつくらせようとして企画している。          ・生活指導に関して指導の不手際や保護者の方への説明不足の課題を感じた。</p>	<p>①学校として積極的に取り組んでいると思われる。保護者アンケートの結果によれば(項目9、10)、情報発信が不十分だという印象を持っている保護者もいるが、この程度のギャップはあって当然であろう。ただ、ホームページに関しては、十分に活用しているとは言えない。更新を行っていないページや、コンテンツが極端に少ないページもある。ホームページの活用には人的コストがかかるため、積極的な取り組みには困難が伴うと思われるが、ホームページが存在している以上、何もしないわけにもいかないだろう。紙媒体を通じての情報発信と業務を連動させるなどして人的コストの低減を図りながら、より積極的な活用を図ることが望ましい。          ①保護者への情報提供は十分行われているように見える。地域へも情報は発信されているが、町会の主だった役員どまりに留まっているのが実態である。          ①12/4に行われた各町会の情報を7年生に伝える交流授業に対し、12/16の地域健全育成運営協議会では様々な課題が提示された。新たな試みを始めたこと自体を評価したい。課題を検討し、学年にも広げさらに進めていただきたい。          ①学級便り、学校便りは写真が多く掲載され子供たちの様子が伝わりやすかった。学級便りは、ページ数を増やして各学年の様子がより詳しく掲載されるとありがたい。          ①最近特に学校と町会の情報交換に力が注がれている。町会としても子供とのかかわりは、喜んでいる。もっと積極的に学校とつき合っていきたい。          ①学校便りや地区文化祭等に積極的にかかわっていただき情報が発信されている。          ②訪問するたび、学校と地域の連携に関して、伝統ある公立学校のよさを感じています。昔と同じようにするのは難しいと思われるが、ぜひこのよさを残して欲しいと思う。          ②日頃感じている以上に地域との接触はあるという印象を受けた。ただし、一件当たりの人数が少ないのではないかと感じる。件数を増やすとともに、それぞれの事案に係る地域側の人数を増やす工夫も必要に思う。          ②2年生の町たんけんでお店の前に子供たちの感想文が貼られていた。未知の世界を見たような感想や感謝が述べられていて微笑ましかった。          ②平日の活動には毎回同じ保護者が参加する傾向があるようだが、その保護者から他の保護者にも情報を伝えるようにしてはどうか。          ②地域とのさまざまなつき合いがあることに驚いた。7年生の職場訪問、8年生の職場体験は大変有意義な教育活動である。</p>	<p>①学校から発行されている「たより」関係に目を通していただいて、さらに温かく見守ってくださっていることを知り、大変嬉しく思う。          ①各町会が7年生に伝える交流授業を今年度はじめて実施した。地域健全育成運営協議会でも意見が出されたが、成果と課題を整理し次年度に向け実施方法など考えていく必要がある。          ①学年便りに保護者の感想記入欄を掲載した。その感想を掲載し、保護者の理解につながる活動が続いている。          ②日本の文化伝統に親しむ日や学校公開の際に積極的に保護者に声をかけ生徒のそばにいていただくよう促している。          ②低学団では、生活科の学習で地域のお店見学や公共施設の見学、工場見学、品川かぶの栽培方法の指導など地域の方に協力していただく学習が多く、これを通して自分たちの町への親しみが深まっていると感じる。毎年協力していただけてとてもありがたくなっている。          ②学校行事・学年行事において、保護者の方々の支援には本当に感謝している。それは、「お手伝い」という一方的な協力を意味するのではなく、学校と地域の「相互理解」という双方向的なかわりも生んでいるのではないかと、来年度からは、新たに発足する校区教育協働委員会や学校支援本部を通じて、より充実した相互支援が実現できればと思う。</p>	<p>①学校便り、学年便り、学級便りでは、子供たちの学びや成長の様子を具体的に伝えている。各学年とも保護者会、家庭訪問・個人面談を確実に実施し、情報共有を行った。また、地域健全育成協議会には、町会長や多数の地域の皆様に参会いただき、子供たちと地域の結び付きを考える協議を行った。本取組を継続しホームページでの学年活動発信等、さらに充実していく必要がある。          ②各学年の活動で保護者や地域の皆様、消防・警察等の関係機関からご指導やお手伝いをいただき、ともに子供たちの成長を支えることができている。今後も継続していく。</p>
<p>② 保護者や地域の力を生かした教育活動を実践する。</p>	<p>A 31% B 57% C 11% D 0%</p>	<p>・低学団の読み聞かせや町たんけんの付き添い、学芸発表会の衣装作りで保護者の協力を得ることができた。地域のお店や公共施設探検に出かけた。          ・読み聞かせ、町探検、学芸発表会の衣装作り、昔あそびなどの協力を得た。          ・音楽では、地域のかというこで、毎年三味線や鼓などの専門力を生かした授業を展開することができている。          ・読み聞かせボランティアや英語ボランティアに参加して頂いている。          ・保護者の熱心な活動が見られる。          ・7年生の職場訪問、8年生の職場体験を通し、地域で仕事をしている方々の力をお借りし、進路や職業について考え学ぶ機会を得ている。          ・8年ファイナンスパークや8年職場体験において、保護者や地域の方々と連携・協力をしながら指導できた。ファイナンスパークでは保護者をはじめとするボランティアの方に多く参加していただき、充実した活動が行えた。          ・保護者の方による読み聞かせ、大井警察署の方による自転車教室を行った。社会科の学習で、地域の工場見学を1月に予定している。          ・マトリックスに表すと、意外に多くの取組が行われている。          ・まち探検の授業で、地域の方に協力していただき、お店の紹介や子どもたちの疑問に答えていただく授業を実施している。          ・職場訪問など市民科のキャリア教育をより充実させる必要がある。具体的には人材バンクのような講師の検討するときのヒントになるようなシステムがあるとよいと思う。          ・もっと力を借りてよいと思う。          ・学校として、そのねらい・目的、また、保護者・地域の力は具体的にどんな方・組織であるかが示された上で教育計画に乗せ、実践・評価・改善していく必要があると思う。</p>	<p>①学校として積極的に取り組んでいると思われる。保護者アンケートの結果によれば(項目9、10)、情報発信が不十分だという印象を持っている保護者もいるが、この程度のギャップはあって当然であろう。ただ、ホームページに関しては、十分に活用しているとは言えない。更新を行っていないページや、コンテンツが極端に少ないページもある。ホームページの活用には人的コストがかかるため、積極的な取り組みには困難が伴うと思われるが、ホームページが存在している以上、何もしないわけにもいかないだろう。紙媒体を通じての情報発信と業務を連動させるなどして人的コストの低減を図りながら、より積極的な活用を図ることが望ましい。          ①保護者への情報提供は十分行われているように見える。地域へも情報は発信されているが、町会の主だった役員どまりに留まっているのが実態である。          ①12/4に行われた各町会の情報を7年生に伝える交流授業に対し、12/16の地域健全育成運営協議会では様々な課題が提示された。新たな試みを始めたこと自体を評価したい。課題を検討し、学年にも広げさらに進めていただきたい。          ①学級便り、学校便りは写真が多く掲載され子供たちの様子が伝わりやすかった。学級便りは、ページ数を増やして各学年の様子がより詳しく掲載されるとありがたい。          ①最近特に学校と町会の情報交換に力が注がれている。町会としても子供とのかかわりは、喜んでいる。もっと積極的に学校とつき合っていきたい。          ①学校便りや地区文化祭等に積極的にかかわっていただき情報が発信されている。          ②訪問するたび、学校と地域の連携に関して、伝統ある公立学校のよさを感じています。昔と同じようにするのは難しいと思われるが、ぜひこのよさを残して欲しいと思う。          ②日頃感じている以上に地域との接触はあるという印象を受けた。ただし、一件当たりの人数が少ないのではないかと感じる。件数を増やすとともに、それぞれの事案に係る地域側の人数を増やす工夫も必要に思う。          ②2年生の町たんけんでお店の前に子供たちの感想文が貼られていた。未知の世界を見たような感想や感謝が述べられていて微笑ましかった。          ②平日の活動には毎回同じ保護者が参加する傾向があるようだが、その保護者から他の保護者にも情報を伝えるようにしてはどうか。          ②地域とのさまざまなつき合いがあることに驚いた。7年生の職場訪問、8年生の職場体験は大変有意義な教育活動である。</p>	<p>①学校から発行されている「たより」関係に目を通していただいて、さらに温かく見守ってくださっていることを知り、大変嬉しく思う。          ①各町会が7年生に伝える交流授業を今年度はじめて実施した。地域健全育成運営協議会でも意見が出されたが、成果と課題を整理し次年度に向け実施方法など考えていく必要がある。          ①学年便りに保護者の感想記入欄を掲載した。その感想を掲載し、保護者の理解につながる活動が続いている。          ②日本の文化伝統に親しむ日や学校公開の際に積極的に保護者に声をかけ生徒のそばにいていただくよう促している。          ②低学団では、生活科の学習で地域のお店見学や公共施設の見学、工場見学、品川かぶの栽培方法の指導など地域の方に協力していただく学習が多く、これを通して自分たちの町への親しみが深まっていると感じる。毎年協力していただけてとてもありがたくなっている。          ②学校行事・学年行事において、保護者の方々の支援には本当に感謝している。それは、「お手伝い」という一方的な協力を意味するのではなく、学校と地域の「相互理解」という双方向的なかわりも生んでいるのではないかと、来年度からは、新たに発足する校区教育協働委員会や学校支援本部を通じて、より充実した相互支援が実現できればと思う。</p>	<p>①学校便り、学年便り、学級便りでは、子供たちの学びや成長の様子を具体的に伝えている。各学年とも保護者会、家庭訪問・個人面談を確実に実施し、情報共有を行った。また、地域健全育成協議会には、町会長や多数の地域の皆様に参会いただき、子供たちと地域の結び付きを考える協議を行った。本取組を継続しホームページでの学年活動発信等、さらに充実していく必要がある。          ②各学年の活動で保護者や地域の皆様、消防・警察等の関係機関からご指導やお手伝いをいただき、ともに子供たちの成長を支えることができている。今後も継続していく。</p>
<p>③</p>					
<p>④</p>					

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

## 評価項目5 環境整備・美化

<p>本校の基本的な考え方 (重点的な取組内容など)</p>	<p>○児童・生徒が触れる環境は、隠れたカリキュラムとしてその成長に大きな影響を与える。児童生徒の健全育成の視点からも、環境・美化の維持向上に、全教職員で速やかに全力で取り組んでいく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習環境を整備し、学習成果を発表する掲示物・展示物を工夫するとともに、安全にかかわる掲示についても配慮する。</li> <li>・自分たちの学校は自分たちできれいにするという意識を定着させ、計画的な清掃指導と「伊藤学園クリーンアップ！」(美化点検月間)を実施する。</li> <li>・全教職員による月始め安全点検を実施して、危険箇所・修理箇所を早期に発見し、安全確保と環境整備を進める。</li> <li>・用務主事、ビル管理会社と連携して、校庭や屋上等の植栽管理を適切に進める。</li> </ul>					
	評価指標 (取組指標)	最終自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
	評価	評定について教員のコメント *コメントは全員のものではありません。	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての教職員の意見	校長の態度表明	
<p>① 清掃がきちんと行われ、校内の美化が行き届いている。</p>	<p>A 30% B 65% C 6% D 0%</p>	<p>・生徒の美化委員会の清掃点検も進められている。また、シルバーの清掃の方のご尽力にも感謝したい。 ・学級内の当番「朝当番」で一人一人が週替わりで責任をもち清掃活動を行っている。 ・美化委員会を中心となりクリーンアップ作戦として意識を高めている。 ・美化委員会の定期的な清掃点検活動を通して、児童生徒の校内美化への意識を高める指導を行った。後期は、新しい活動も始まり、今後の意識向上に期待がもてる。 ・美化委員による美化点検活動が定着し始めている。 ・7年生が4クラスになった関係で、階段掃除ができなくなった。清掃分担の見直しが必要と思われる。 ・校舎はきれいだが、主事さんやビル管理の人の手によるところが大きい。もっと生徒の清掃活動を主にする手立てが必要である。 ・教職員の努力によるところが大きい。児童生徒の手で清掃がきちんと行われるよう、より一層指導が必要だと思われる。 ・清掃活動は行っているが、主事さんに任せきりなところもあるので、もっと行えたらと思う。 ・清掃指導に行き届かない部分が多く、校内美化の大切さを伝えることができていない。 ・トイレをきれいに使うための継続的指導・働きかけが不十分。男子便器のつまりによると思われる水漏れも時々ある。 ・オープンスペースの個人ロッカー裏のフックに物がかけられ過ぎているためかけてある物が落ちていることがある。</p>	<p>①保護者アンケートでは7番の項目がこれに関係すると思うが、7番の評価は高い。学校の取組は、保護者に伝わり評価されていることを感じる。 ①児童・生徒自身の意識を高め、美化に取り組むよう仕向ける運営はすばらしい。自己評価にあるとおり、清掃活動の生徒負担についても、もっと増やしてよいと思う。義務感、自立感などに結び付き人格形成に資すると思う。階段の清掃不徹底は気になっていた。 ①秋は学校の周りに落ち葉が多く、先生も加わり清掃しているのを見た。バス停の近くの花壇に「花を持っていかないでください。」と書いてあるが、地域の我々も注意して見ていく必要がある。 ①オープンスペースの個人ロッカーの整理整頓をもっと指導してほしい。 ①子供たちが学級の備品を大切に扱っている様子を見かけ感心した。 ①自己評価のコメントから、学校全体は美化されているようだが、子供たち自身の清掃活動ではまかないきれいでないことが課題である。</p>	<p>①落ちているごみを自分から拾う習慣を身に付けさせたい。 ①児童・生徒が校内の美化に努め、備品等を大切に使用していただけるように、引き続き指導していきたい。 ①児童・生徒がすすんで掃除をするために、清掃の時間を各クラス共通で取る必要があるように思う。(中学団)時間内はしっかり掃除をさせたい。 ①現在、委員会が8年生が委員長として進められている。伊藤学園の良き先輩が培ってきた校風を守るため、美化コンクールを朝礼や放送で委員長より啓発し実施している。 ②季節や行事を意識した掲示物に心がけ、児童生徒の作品発表の場を設けたり、行事への意識を高めていきたい。 ②掲示物については、今後も継続的に変えながら、学習環境を整えていきたい。</p>	<p>①全児童・生徒による清掃と美化委員会による点検活動を行っている。行事等で清掃時間がとれない時は、教員が清掃し、日常的に環境を整え落ち着いた学校生活が保てるよう努めている。今後さらに児童・生徒の清掃時間を確保し、主体性と望ましい勤労観、自分たちの身の回りを汚さないよう留意する生活習慣を身に付けさせていく。 ②各学年のフロアには、行事や諸活動に関連した士気を高める掲示物、季節を感じる掲示物を工夫して掲示している。各教室にも、学びの過程や成果が確認できる作品等を掲示するよう努めている。また、スクールパティの活動によるじめ撲滅ポスターや生け花等、部活動による工夫ある掲示・展示も行っている。今後も適切な時期、人権的な配慮、子供を励ます評価、気持ちが落ち着く内容に留意し、工夫ある掲示で生活環境を潤いのあるものにしていく。</p>	
<p>② 季節や行事等に配慮した掲示物が工夫され、安全な学習環境が整えられている。</p>	<p>A 28% B 72% C 0% D 0%</p>	<p>・クラスの学習環境を整えるように意識している。 ・意識しながら取り組んでいる。 ・季節の出来事を紹介する等、掲示物を工夫した。 ・学習成果を発表する掲示物を随時掲示している。また季節感のある掲示物を心掛け、安心できる教室環境を整えるようにしている。 ・学年のオープンスペースを活用して、行事ごとに雰囲気盛り上げ児童生徒の意欲を高めるために、スローガンや写真等を掲示するなど工夫した。 ・掲示物は必要最小限にとどめ、時宜に合わせた掲示を心掛けている。 ・低学年は特に意識して行っていると感じる。また、合唱コンクールのころには、上の学年でも、様々な工夫が見られ、一体感があった。</p>	<p>②校舎内の展示、掲示に問題を感じたことはない。いつも楽しく見せていただいている。 ②AB数値が100%である。掲示物もいつもいろいろと工夫して取り組んでいると思う。 ②オープンスペースに子供の作品が展示されていてよい。</p>			
<p>③</p>						
<p>④</p>						

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

## 評価項目6 いじめ防止に関する取組み

本校の基本的な考え方	最終自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
	評価	評定について教員のコメント *コメントは全員のものではありません。	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての教職員の意見	校長の態度表明
<p>本校の基本的な考え方</p> <p>○いじめは絶対に許さないという基本姿勢を児童・生徒・保護者に示し、いじめのない児童・生徒の自主性に富んだ教育活動を展開する。</p> <p>・市民科において、毎月末に「いじめ防止プロジェクトin伊藤学園」を実施して、いじめが人権侵害であることを理解させるとともに、スキルトレーニングを通してよりよい人間関係を作るための方法を考えさせ、発信できるようにさせていく。</p> <p>・月1回の無記名アンケートから学級の雰囲気や把握・分析するとともに、学期に1回の記名アンケートとその後の個人面談を行い、早期発見と早期解決を目指す。</p> <p>・市民科モデル実践校として、いじめ防止プログラム(スクールバディ・プログラム)とhyperQU(学級集団アセスメント)を4・7年で実施する。7・8年生有志を対象に、スクールバディ養成研修を実施する。また、児童や学級の状況を継続して把握するためにhyperQUを5・6年でも実施する。</p> <p>・地域健全育成運営協議会を年3回実施し、保護者や地域と連携して、いじめをなくす取組について理解と協力を得て、地域ぐるみでいじめを根絶する風土作りを行う。</p>					
<p>① 記名アンケートと面談を実施して、早期発見、発見時組織的な対応をする。</p>	<p>A 52%</p> <p>B 48%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p>	<p>何かあったときは学年間で報告・連絡・相談を行い、迅速に対応している。</p> <p>何かあれば、早急に他の担任と話し、複数での対応を行った。</p> <p>記名式アンケートや面談だけでなく班長会などでも状況把握に努めている。</p> <p>アンケートから学級の問題点や心や体が傷付いたことのある子をしっかりと把握し、対応することができた。</p> <p>個人面談を行い、一人一人と話をする機会を計画的に実施している。そのことにより日頃、教員に自分から話せない児童・生徒も一対一で話をする機会ももっている。またその際、気になる児童・生徒については、他の教員にも伝え、みんなでみていくという姿勢をもって対応している。</p> <p>各学期に、定期的に記名・無記名生活アンケートを実施・活用し、児童生徒の様子を的確に把握するために役立てることができた。</p> <p>記名アンケートの内容には早めに目を通し、記入のあるものについては聞き取りを行って早期発見に努めている。また発見次第報告し、組織的な対応を心掛けている。</p> <p>定期的なアンケートや面談で、児童の実態を知ったり、コミュニケーションを図ることができ、充実したものになった。</p> <p>1年生の児童など、アンケートのあり方を理解できていない児童もいるので、理解できている学年にはとても有効だと感じている。</p>	<p>①A、B評価が100%である(中間報告でも合計100%)ことは、評価すべきである。</p> <p>①いじめの芽を摘み取る努力が成果を挙げているという実感を教職員全体がもたれているようで心強くまた喜ばしく思う。</p> <p>①AB評価のみであるのは、たいへん良いことである。先生方もこの件に関して、特に力を入れていることが感じられる。</p> <p>①今後も見えないいじめに心配を続けていただきたい。</p> <p>②これも評価が高い。2%(回答者1人?)がCとし、コメント欄に「誠実な対応をすべきだが、早期対応が拙速な対応になってしまったり、わずかの遅れが大きく保護者の信頼を損ねることになったりなどの課題があった。」という指摘がある。この事例は、コメントを書かれた先生だけでなく、学校として把握している事例だと思われるが、いじめ防止に関しては、たとえアンケートではごく一部の指摘にとどまっても、このような個別の問題事例一つ一つに対応していくことが大切だと感じる。</p> <p>②友達のかかわりで、気になる状況の時は子供同士と担当がしっかりと向き合い解決している様子が見られた。家庭に丸投げせず教師主導で対応している姿が保護者に安心感を与えている。</p> <p>②保護者への連絡はうまく取り合っていると感じられる。この上に地域との連携がもう少しうまく取り組めるとよい。</p> <p>③真にいじめをなくすためにはこの取組が根本となる。市民科授業をはじめあらゆる面で人間性を育てる方針に期待したい。</p> <p>③いじめは、いつ、いかなる時代にもある。このことを子供自身、教職員、地域の大人がいつも意識をもち、未然に防げるよう市民科授業に取り組めるとよいと思う。</p> <p>④スクールバディの活動が定着してきたことが感じられる。</p> <p>④スクールバディの意義は大きいと思う。活動に参加することで人権意識は養われるであろうし、児童・生徒間で悩みや苦しみを相談できるというのは安心感ももてる。運用が軌道にのりつつあるようなので、進展していただきたい。</p> <p>④低学団がスクールバディに憧れる様子が見られる。さらにその流れが強くなるとよいと感じた。</p> <p>④多くの人に参加してもらい、継続していけるとよい。</p>	<p>①これからも、いじめを許さない姿勢を示し続けるとともに、児童生徒の心の教育を充実させていきたい。</p> <p>①人間関係をしっかりと築けるようなクラス環境を整えていきたい。</p> <p>①生活面談、個別面談での生徒、保護者との会話や市民科での繰り返しの指導を継続している。</p> <p>①生徒の様子を観察し、小さなことでも気になることがあれば、学年主任にすぐに相談し、学年会議を開き情報を共有できるようにしている。</p> <p>①生徒が登校する前に教員がオープンスペースに待機していることで、生徒の様子を欠かさず観察できるようにしている。休み時間等も同様に行っている。</p> <p>②これからも生徒の心に入り込むような指導を心掛け、いじめのない環境づくり、学級づくりをしていきたい。</p> <p>③市民科でのアサーショントレーニングを通して、相手に上手く傷つかずにもものを伝える時には一度立ち止まってから行動するよう指導している。また、トレーニングの成果が出ているかを把握するために生徒にアンケートを取っている。</p>	<p>①定期のアンケート調査を確実に分析し、子供からの申告や変容を見逃さないようにしている。また、全児童・生徒と担任との面談を実施し、直接聞き取る対応も行った。今後もこれらに加え、日々の言動に注視しながら、コミュニケーションを密にし悩みを伝えられる関係を築き、人権侵害にかかわる厳しい指導を徹底し、信頼関係の中で安心できる集団生活となるよう留意する。</p> <p>②深刻になる前の初期対応を大切に、気になることは保護者と連携し、児童・生徒が安心できる対応をとるよう努めていく。今後も健全育成協議会や地域の会合では、本校のいじめ防止の取組について情報発信したり気になる言動を見かけたらご連絡いただいたりするようお願いする。</p> <p>③市民科を中心に、相手思いやる気持ちや適切な言動、人権感覚、コミュニケーションスキルの育成を目指す。実生活の中での人間関係のトラブルも市民科で学習した内容を想起させながら心を耕すようにしていく。</p> <p>④スクールバディは、子供の自発的、主体的な活動と啓発運動により自浄効果を高め、未然防止につなげていく。</p>
<p>② 保護者と連絡を取り合い、いじめの早期発見、早期対応に努める。また、地域とも連携した取組を進める。</p>	<p>A 44%</p> <p>B 54%</p> <p>C 2%</p> <p>D 0%</p>	<p>友達との関わりで気になることがあれば、保護者と連絡を取り合っている。</p> <p>保護者会や数多くある学校公開のときに保護者との会話など様々な場面で情報交換を行っている。</p> <p>毎日の日誌から生徒の様子を記入している。また、保護者からも家庭での様子が記入されているので早期対応ができている。</p> <p>児童生徒の情報を学校と家庭間で共有し、連携を密にして協力して指導にあたることができた。</p> <p>生活指導上、気になることがあった場合は、学年全体で共有し、保護者への連絡を早期に行い、家庭とともに解決に努めることができた。</p> <p>日頃から生徒の様子に気を配り、気になることがあれば保護者に連絡している。</p> <p>何か問題があれば、担任の先生より保護者と密な連絡を取り合っている。</p> <p>地域との連携は今後取り組むべきことと考えている。</p> <p>誠実な対応をすべきだが、早期対応が拙速な対応になってしまったり、わずかの遅れが大きく保護者の信頼を損ねることになったりなどの課題があった。</p>	<p>③真にいじめをなくすためにはこの取組が根本となる。市民科授業をはじめあらゆる面で人間性を育てる方針に期待したい。</p> <p>③いじめは、いつ、いかなる時代にもある。このことを子供自身、教職員、地域の大人がいつも意識をもち、未然に防げるよう市民科授業に取り組めるとよいと思う。</p> <p>④スクールバディの活動が定着してきたことが感じられる。</p> <p>④スクールバディの意義は大きいと思う。活動に参加することで人権意識は養われるであろうし、児童・生徒間で悩みや苦しみを相談できるというのは安心感ももてる。運用が軌道にのりつつあるようなので、進展していただきたい。</p> <p>④低学団がスクールバディに憧れる様子が見られる。さらにその流れが強くなるとよいと感じた。</p> <p>④多くの人に参加してもらい、継続していけるとよい。</p>	<p>②これからも生徒の心に入り込むような指導を心掛け、いじめのない環境づくり、学級づくりをしていきたい。</p> <p>③市民科でのアサーショントレーニングを通して、相手に上手く傷つかずにもものを伝える時には一度立ち止まってから行動するよう指導している。また、トレーニングの成果が出ているかを把握するために生徒にアンケートを取っている。</p>	<p>②深刻になる前の初期対応を大切に、気になることは保護者と連携し、児童・生徒が安心できる対応をとるよう努めていく。今後も健全育成協議会や地域の会合では、本校のいじめ防止の取組について情報発信したり気になる言動を見かけたらご連絡いただいたりするようお願いする。</p> <p>③市民科を中心に、相手思いやる気持ちや適切な言動、人権感覚、コミュニケーションスキルの育成を目指す。実生活の中での人間関係のトラブルも市民科で学習した内容を想起させながら心を耕すようにしていく。</p> <p>④スクールバディは、子供の自発的、主体的な活動と啓発運動により自浄効果を高め、未然防止につなげていく。</p>
<p>③ 未然防止のための市民科授業を毎月行う。</p>	<p>A 28%</p> <p>B 65%</p> <p>C 7%</p> <p>D 0%</p>	<p>今年度はアサーティブやアンガーマネジメント等、学年の状況に合わせて生徒がイメージしやすいように工夫して展開した。昨年度の内容にも振り返る「単発でない市民科授業」の展開を心掛けて実施した。自己有用感を高めるために生徒主体の行事運営を意識し計画実行した。</p> <p>当初はいじめに焦点を当てた授業を毎月は行っていないが、現在は行っている。自分のイライラを解消する方法を知る授業なども未然防止につながっていると思う。</p> <p>学年で計画的に行った。</p> <p>学年集いを毎月行い、その時々抱える課題について児童全体に伝えている。</p> <p>授業で真剣に取り組むこと、また、担任や学年の先生方の指導で防げていると感じる。</p> <p>いじめ防止プロジェクトを行っている。目に見えて児童の様子に変化が出ていない。</p> <p>月末に実施するよう計画をしているが、様々な行事などがあり、時間の確保が非常に難しい。</p> <p>行事や交流等の学習が優先になり、毎月はできていない。</p> <p>学年として取り組んでいるものの毎月行っていない。</p>	<p>③真にいじめをなくすためにはこの取組が根本となる。市民科授業をはじめあらゆる面で人間性を育てる方針に期待したい。</p> <p>③いじめは、いつ、いかなる時代にもある。このことを子供自身、教職員、地域の大人がいつも意識をもち、未然に防げるよう市民科授業に取り組めるとよいと思う。</p> <p>④スクールバディの活動が定着してきたことが感じられる。</p> <p>④スクールバディの意義は大きいと思う。活動に参加することで人権意識は養われるであろうし、児童・生徒間で悩みや苦しみを相談できるというのは安心感ももてる。運用が軌道にのりつつあるようなので、進展していただきたい。</p> <p>④低学団がスクールバディに憧れる様子が見られる。さらにその流れが強くなるとよいと感じた。</p> <p>④多くの人に参加してもらい、継続していけるとよい。</p>	<p>②これからも生徒の心に入り込むような指導を心掛け、いじめのない環境づくり、学級づくりをしていきたい。</p> <p>③市民科でのアサーショントレーニングを通して、相手に上手く傷つかずにもものを伝える時には一度立ち止まってから行動するよう指導している。また、トレーニングの成果が出ているかを把握するために生徒にアンケートを取っている。</p>	<p>②深刻になる前の初期対応を大切に、気になることは保護者と連携し、児童・生徒が安心できる対応をとるよう努めていく。今後も健全育成協議会や地域の会合では、本校のいじめ防止の取組について情報発信したり気になる言動を見かけたらご連絡いただいたりするようお願いする。</p> <p>③市民科を中心に、相手思いやる気持ちや適切な言動、人権感覚、コミュニケーションスキルの育成を目指す。実生活の中での人間関係のトラブルも市民科で学習した内容を想起させながら心を耕すようにしていく。</p> <p>④スクールバディは、子供の自発的、主体的な活動と啓発運動により自浄効果を高め、未然防止につなげていく。</p>
<p>④ スクールバディの活動を充実させる。</p>	<p>A 30%</p> <p>B 65%</p> <p>C 6%</p> <p>D 0%</p>	<p>・スクールバディの活動を、クラス全体に関わるものを多く取り入れており、スクールバディを学校全体に広められている。</p> <p>・今年度はスクールバディのキャラクターの名前を全校で考えるなど、低学団の児童も参加できる活動がありよかった。</p> <p>・地道な活動であるが、大事なことでと担当、メンバーは感じながら活動している。周囲の理解や後押しが必要である。</p> <p>・いじめの未然防止への意識を更に高めるためにスクールバディの活動を工夫しながら継続的に実施した。また、バディへの参加者を増やすための工夫も行ったが、十分な成果がまだ出ていない。</p>	<p>③真にいじめをなくすためにはこの取組が根本となる。市民科授業をはじめあらゆる面で人間性を育てる方針に期待したい。</p> <p>③いじめは、いつ、いかなる時代にもある。このことを子供自身、教職員、地域の大人がいつも意識をもち、未然に防げるよう市民科授業に取り組めるとよいと思う。</p> <p>④スクールバディの活動が定着してきたことが感じられる。</p> <p>④スクールバディの意義は大きいと思う。活動に参加することで人権意識は養われるであろうし、児童・生徒間で悩みや苦しみを相談できるというのは安心感ももてる。運用が軌道にのりつつあるようなので、進展していただきたい。</p> <p>④低学団がスクールバディに憧れる様子が見られる。さらにその流れが強くなるとよいと感じた。</p> <p>④多くの人に参加してもらい、継続していけるとよい。</p>	<p>②これからも生徒の心に入り込むような指導を心掛け、いじめのない環境づくり、学級づくりをしていきたい。</p> <p>③市民科でのアサーショントレーニングを通して、相手に上手く傷つかずにもものを伝える時には一度立ち止まってから行動するよう指導している。また、トレーニングの成果が出ているかを把握するために生徒にアンケートを取っている。</p>	<p>②深刻になる前の初期対応を大切に、気になることは保護者と連携し、児童・生徒が安心できる対応をとるよう努めていく。今後も健全育成協議会や地域の会合では、本校のいじめ防止の取組について情報発信したり気になる言動を見かけたらご連絡いただいたりするようお願いする。</p> <p>③市民科を中心に、相手思いやる気持ちや適切な言動、人権感覚、コミュニケーションスキルの育成を目指す。実生活の中での人間関係のトラブルも市民科で学習した内容を想起させながら心を耕すようにしていく。</p> <p>④スクールバディは、子供の自発的、主体的な活動と啓発運動により自浄効果を高め、未然防止につなげていく。</p>

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

## 評価項目7 学校独自の特色ある教育活動

評価指標 (取組指標)	最終自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
	評価	評定について教員のコメント *コメントは全員のものではありません。	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての教職員の意見	校長の態度表明
本校の基本的な考え方	<p>○施設一体型小中一貫校だからこそできる教科・市民科指導を創意工夫するとともに、異学年交流の内容の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上のために、教科や学年分科会で、教科指導の工夫や授業技術の向上を目指した研究を進める。</li> <li>・市民科モデル実践校として、いじめ根絶を目指した心の教育のための研究を行い、それを進める中で、PDCAのマネジメントサイクルを活用して、授業とカリキュラムの改善を図っていく。</li> <li>・学校行事と異学年交流活動等についても同様に、マネジメントサイクルを活用した見直しと充実を図り、児童、生徒、教職員、保護者、地域の方が充実感を味わえるものにする。</li> </ul>				
① 市民科授業や学校行事、異学年交流を工夫することによって、児童・生徒は充実感を味わっている。	<p>A 35%</p> <p>B 61%</p> <p>C 4%</p> <p>D 0%</p>	<p>・たてわり班活動を月に一度程度行うことができ、1～4年生までの児童は交流の機会を多くもつことができた。</p> <p>・特別支援学級小学部では、毎年特別支援学級中学部と合同で校外学習を実施し、事前学習や当日の行動を小学部と中学部混合の班で活動させ、異学年交流を行っている。また、相互のお楽しみ会への参加や学芸発表会での合同発表(5・6年生のみ)等も行い、多くの場面で交流を図っている。</p> <p>・低学年の縦割り班活動では、1～4年が月に1回交流できた。</p> <p>・学校行事を経験することで児童は充実感を味わい、成長している。</p> <p>・施設一体型一貫校として数多くの合同市民科を展開することができた。分離型ではここまで一緒に計画を実行することはできない。ここを強みとした行事の企画立案実行することができた。高遠移動教室を通して、受け入れる8年生の中では、まとめようとする意識の芽生えや先を見通して実行する大切さ等多くのことに成長する機会を得た。</p> <p>・4年生でのスクールボランティア活動や、学芸発表会での係活動を通して、児童が達成感を味わえるようにしている。</p> <p>・下級生の面倒を見る機会が多く、思いやりが育つ環境にあると思う。</p> <p>・特に学校行事では、充実感を味わうことができたと思う。</p> <p>・5・8年合同移動教室では、5年と8年の健全で好ましいつながりをもつことができた。また、8年の生徒たちに上級生としての自覚や責任感が芽生えた。</p> <p>・高遠移動教室では5年生と寝食を共にすることによって今までにない責任感や高学年としての自覚を芽生えさせた。</p> <p>・学芸発表会リハーサルを通して、異学年と交流し、自分のがんばりに気付いたり、他学年への興味や憧れ、今後の目標を見つけたりすることができた。</p> <p>・たてわり班での活動や、交流給食など、異学年交流の機会を設けている。</p> <p>・たてわり班活動を積極的に実施していること、また、部活動でも、交流がなされていると感じる。</p> <p>・1～4年生は縦割り班活動で異学年交流が行われている。5・6年生とも交流があってもよいと感じる。</p> <p>・9年生の力が発揮されるような異学年交流を工夫したい。</p> <p>・6年生が意欲的に活躍できる場をつくってあげたい。</p>	<p>①5・8年の高遠移動教室以外は一貫校でなくとも実施できることのようにだが、行事を参観する度に生徒会による自治的な運営の度合いが高いことを感じ感心している。</p> <p>①合唱コンクールの9年生はさすがに上手だった。1年生も入学時から成長し立派になったと感じた。また、4年生が運営からすべてにかかわり、休憩時には保護者に質問をし会場を和ませていた。</p> <p>①4年生の児童が今年度たて割り班の班長となり、1年生のための遊びのプログラムを仲間と共に一生懸命企画する姿に成長を感じた。下級生を見ることにより責任感や慈しみの心の育ちが期待できる。</p> <p>①我々の小・中学校の時代と違い、今の先生方の子供への気の遣い方、努力には本当に頭の下がる思いである。私も微力ながら母校のために頑張ろうと思っている。</p> <p>①学芸発表や合唱コンクールを通して下学年は憧れをもって成長していけると思う。これがよい特色となっている。</p>	<p>①好きなことだけでなく、苦手なものにも懸命になれる児童・生徒を育成していく。</p> <p>①高遠移動教室では、一体型のメリットを生かして展開できた。また、今年度より8年夏期集中講座を実施した。これは全校体制での実施であった。1年の教員～9年の教員までが8年の指導に関わり数多くの大人の目を生かした指導を行うことができた。</p> <p>①小中一貫校だからこそ、学年の枠をとり、1年～9年の授業を参観できることができ、系統的な学習や児童・生徒のつまづきを発見できる環境がある。この特性を学習指導に生かし、個にあった指導を展開することができる。</p> <p>①委員会活動では、生徒が企画、運営、反省を積極的に行うことで、生徒の自治的活動能力を高めるよう努めている。</p>	<p>①交流学习は、交流時間だけでなく事前・事後指導も含めて、活動の価値が高まるよう取り組んでいく。上学年は下学年への慈しみの気持ち、下学年は上学年への憧れの気持ちをもてるよう今後も活動の質を高めていく。</p>
②					
③					
④					

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない